

発行・編集：多摩市永山地域連絡会

事務局：多摩市中部地域包括支援センター

電話042-375-0017

平成29年12月1日発行



第8号

永

山

モ

テ

ル

かわら版

～永山地区ワークショップ～

今こそ！わたしたちの底力 豊かに暮らす永山モデル

平成29年第1回「永山地域連絡会」が11月30日に行われました

平成29年第1回永山地域連絡会が開催されました。

今回も、永山団地自治会、永山団地名店会、民生児童委員、小学校、医師会、UR、社協、地域包括支援センターなど約30名の皆さんが集まり意見を出し合いました。

～話し合いのテーマ～

- 「見守り相談窓口」「中部地域包括支援センター」開設後の状況について
- 第1層生活支援コーディネーター、第2層生活支援コーディネーターの紹介と説明
- 訪問Bの状況について（ほっとセンター）
- 瓜生小、永山小との世代間交流について
- 意見交換



見守り相談窓口開設・中部地域包括支援センター移転後の状況

★平成28年12月上旬～中旬：

「見守りサポーター養成講座」「見守り協力員講座」開催

★12月中旬～見守り協力員等との連絡会開催

現在21名の協力員がいる。

現在6ケースの見守りケースあり。

★中部包括支援センターの来所相談件数の増加
高齢化率が37パーセントになった。



永山小学校・校長先生より

今後3-1サロンの方々の「給食を一緒に食べる会」を実施、高齢者と交流しながら、理解を深めています。高齢者と共に、ラジオ体操も夏休みに開始しました。

瓜生小学校・校長先生より

「太鼓の届け物」を地域におこなっていて、世帯交流に繋がっている



★第1層コーディネーター（田中氏）

地域の課題について地域住民と一緒に考えていく役割は2層と同じです。

1層はその課題が多摩市全体の問題として捉えて、関わります

★第2層コーディネーター（森田氏、畔上氏）

地域毎に担当がいて今年9月から動き出し開始。地域福祉推進委員会が現在10あるその中で問題を検討。小さい単位で居場所作り（サロン等）を作る事、生活支援のしくみを作っている。

ほっとセンターでは訪問Bを開始しました。

ネコサポでは、毎月店舗イベントを行なっています。

福祉亭では、食事提供、配食、毎日に催し物等の中でコミュニケーションをとっている。担い手がいない。

地域には人材がたくさんいると思う、地域の人材バンクのような機能があればいいのでは。企業も含めて検討が必要

車椅子も夜間に必要なときどこかにあればと感じた。（様々な意見ができました。）

「永山地域連絡会として、今後も地域課題解決の向け、1層、2層の生活支援コーディネーターと共に会を開催します、どうぞご協力の程宜しくお願いします。